

令和7年度 グループまどか地域連携推進会議 議事録

開催日：令和7年9月26日（金）

時 間：13時30分～15時00分

会 場：社会福祉法人アムネかつしか 2階会議室

参加者：地域住民の方、入居者家族、保健師（新小岩保健センター）、入居者（グループまどかⅢ）

事務局：社会福祉法人アムネかつしか理事長、グループまどか管理者、グループまどかⅢ管理責任者、
グループまどかⅢサービス管理責任者

1. 開会

理事長挨拶：日頃から当法人の運営にご理解をいただき感謝している。今回の地域連携推進会議は皆さんのご意見をいただける貴重な機会となる。グループホームについて率直なご意見をいただき、今後の事業所運営にいきたい。

2. 地域連携推進会議の目的

障がい者グループホームの運営にあたり、利用者と地域との関係づくり、施設等や利用者に関する理解の促進、サービスの透明性や質の確保等を達成するために、2025年度から義務化された制度。

3. 障がい者グループホームについて

グループホームは利用者が地域において自立した生活、社会生活を営むことができるよう支援する施設である。支援内容として、食事や掃除等の家事支援、日常生活上の相談支援、余暇活動支援、金銭管理、服薬管理、利用者の日中活動先等関係機関との連絡調整、介護が必要な利用者には食事や入浴、排せつ等の介護を行う。

利用者の希望に沿って「できる」ことを増やし、できないことは家族等に代わりサポートしながら自立を促進する。

4. グループまどかについて

グループまどかは、社会福祉法人アムネかつしかが運営しており、精神障がいがあり、様々な事情で困っている方に対して住まいの場を提供し、自立支援を行うグループホームとして2002年11月から事業を開始している。利用期間は最長で3年間の期限があり、その期間内で一人暮らしやずっと住めるグループホームなど新しい生活に向けてできることを増やしていくことを目的としている。

（1）グループまどかの変遷

- ・グループまどか 2002年 11月～事業開始
- ・グループまどかⅡ 2006年 1月～事業開始
- ・グループまどかⅢ 2024年 12月～事業開始 ※緊急一時入所事業も同時開設

※ 2025年9月現在：定員19名 男性6名 女性12名 20代～60代の方が利用中

(2) グループまどかが大切にしていること

- ① 個別支援の重視：一律のルールとして決めず、その方に応じて柔軟に対応をする。(オーダーメイドの支援)
- ② 住環境の整備：快適な住環境で良い生活体験をしてもらい、次のステップへの一助となるよう努める。長期入院された方や家族との関係がよくない方は、どのような家具を準備したらいいのかわからないことがあるので、すぐに生活できるように家具を常備している。
- ③ 生活の楽しみを提供：過去に辛い経験を経てホームに入られる方が多く、レクリエーションやお祝い会を通じて楽しみの機会を提供する。

5. グループまどか事業報告

(1) 2024年度グループまどか事業報告 ※まどか 2022年～2024年の事業報告データを基に説明

① 事業成果

- ・12月1日付で緊急一時入所事業及び新規グループホームを開設。まどかⅢは開設前から見学等の受け入れ令和7年3月3日に満室となった。
- ・グループまどか、まどかⅡは空室保証を含めた稼働率は100%を維持。(7名入居、6名退去)
- ・まどか全体での1泊旅行が実施できなかったため、2月に日帰りの外出レクリエーションを実施。

② 今後の課題

グループまどかⅢ職員は現場に慣れない中、新規入居者は支援量が多い状況。また、緊急一時入所事業は平日のみの4泊5日で事業計画を進めてきたが、葛飾区保健予防課から、土日受入れの依頼があり週7日の利用対応となり、今年度は常勤職員を1名増やし体制を強化している。

(2) グループまどか入居者関係

① 支援内容

入居されている方の状況に応じて、個別に支援内容を話し合っていて決めている。主な支援内容として、通院同行や薬の管理等の医療面でのサポート、出納帳確認や本人のお金を預かり、毎日または毎週お渡しする金銭管理、食事提供、日中活動先の見学に同行する健康面でのサポート、掃除や入浴、洗濯などの家事援助や手続きに同行する等日々の生活支援、さらに退所後の住まいを探す支援を行っている。

② グループまどか入居前と退所後について ※2022年～2024年の比較表を基に説明。

入居前は、主に家族と同居されていたが、家族の高齢化に伴い今後の自立を目指す方、病院から退院して直接まどかに入居される方が多い。

退所後は、ずっと住めるグループホームに入居される方が多い。サービスを受けながら単身生活を送っている方もいる。

6. サービスの質の透明性、利用者の権利擁護について

① 現在の入居者の日常の様子

・グループまどか

定員が5名で現在4名入居。10月に1名入居予定。一般就労1名、生活訓練事業所1名、就労移行検討中2名。サポート内容は、掃除、金銭管理、服薬確認、相談支援を行っている。

・グループまどかⅡ

7名定員で現在満室。20代から60代が利用中。一般就労1名、アルバイト1名、就労移行1名、デイケア2名、生活訓練事業所1名通所中。半年以内に1名一人暮らしへ。1名は滞在型グループホーム探しを行う予定。サポート内容：事務所にて金銭管理6名、掃除、整理整頓、口腔ケア、入浴支援、自炊支援、相談支援、服薬管理、定期通院同行などを行っている。

・グループまどかⅢ

定員が7名で現在満室。キッチンやお風呂、トイレ等が完備された個室タイプ。男女比として男性1名、女性6名、年齢は20代～60代。サポート内容は、平日朝夕の食事提供、部屋の掃除、服薬の声かけ、金銭管理、定期受診同行、日常の不安や困りごとについての相談を行っている。歩行が不安定な入居者に対しては買物同行、代行を実施。入居者の日中の活動先は就労移行支援事業所や就労継続支援事業所等、外に出て活動している。1名体調不良で急遽受診同行を行ったが、それ以外の入居者は比較的安定した生活を送れている。

② 2024年度入居者のアンケート結果

令和6年度福祉サービス第三者評価をまどかが受審し、その調査結果を基に説明。「困った時、職員は助けてくれますか」「けがをしたり、体調が悪くなったときの職員の対応は信頼できますか」という問いに対し、「はい」が100%で、支援の質に対して入居者の満足度は高い。一方で自由記述欄に「不適切な支援をする職員が1名いる」と記載されていた。改めて利用者支援について事業所間で確認し、支援の質の向上に努めている。

③ ヒヤリハット・事故報告書

まどかⅡから1名、まどかⅢから1名報告した。

7. 感染症・災害時の取り組みについて

業務継続計画は災害、感染ともに令和5年度に策定済み。

(1) 感染症

年に2回、訓練と研修を実施している。コロナ等の感染症が発生したときに備え、受け入れ医療機関リスト、日々の体調チェックリスト、濃厚接触者リスト作成。感染者が出た場合はチェックリストを活用し個別に対応を行っている。日々の対応として、毎日入居者は検温、スタッフは消毒及び換気を行っている。令和7年6月7日に感染症研修を実施し、ノロウイルス対応について確認した。

(2) 災害対策

年に2回、訓練と研修を実施している。災害用ラジオ、入居者の各居室に災害リュック（災害時の食

料・水3日分、防寒グッズ、ヘルメット、救急用品等と各居室に常備灯を配置。事務所の災害リュックには加えて緊急連絡先、お薬一覧表を入れている。また、避難訓練では入居者の方へ災害伝言ダイヤルのやり方を説明。災害時の食事提供ガイド、備品チェックリスト、被害状況チェックリスト、災害時の行動手順書を新たに作成。また、震災に備え、各ホームに500ℓ、1,000ℓの災害時生活用水タンクを設置。予備食料を購入し、災害時に2週間程はグループホームで生活ができるよう整備した。

令和7年6月7日災害研修では災害が起きた際の行動について手順書を基に確認。緊急連絡先の携帯登録や災害時用携帯充電を毎週土曜日に行うこと、マスターキーの解除方法についても確認を行った。12月訓練では水害時の避難確保研修・訓練を予定。

今後の災害に備え、各ホームに新たにポータブル蓄電池とソーラー充電を設置予定。

8. 意見交換

- ・地域のイベント（クリーン作戦や町会の運動会、おまつり等）に参加して、グループホームがあること、障がい者施設があることをまず地域の方々に知ってもらうことが必要だと思う。挨拶や一緒に活動することで顔を知ってもらう機会が作れる。積極的に参加していただきたい。
- ・ここまで細かく支援されていることを知ることができた。入居者の方も安心して暮らせると思う。
- ・有事の際だけでなく、日ごろから安心、安全な場所で生活できれば体調も落ち着いて過ごせる。安心が安定につながるし、安定がまた安心になる。
- ・3年後の生活を考えると、単身の方はどこで生活されているのか気になる。
→（管理者より：グループホームの近くや葛飾区周辺の区に住まれる方が多い）
- ・スタッフが忙しそうなので、レクリエーションの実施が止まってしまった。